opusdei.org

## 聖ホセマリアの生涯 - 25

オプス・デイのメッセージは 全世界に向けたものである とを自覚していたホセマリ ア・エスクリバーは、活動の 範囲を広げることに取り掛か ります。しかしスペイン内戦 が始まります。

2023/10/19

## 過去の記事はこちらから

全ての人が聖人になるよう呼ばれているというオプス・デイのメッセー

ジはあらゆる時代のあらゆる国の 人々のためであることは、聖ホセマ リアは最初からわかっていました。 またメンバーの数が少なく、しかも ほとんどが学生だった1935年頃、神 父は地中海の古い都市バレンシアと フランスのパリでオプス・デイの活 動を始める計画を立てていました。

1936年2月、スペインで総選挙があ りました。カトリック教会を敵視す る左翼の政党が選挙協力をしたのに 対し、保守派の政党は足並みを揃え ずに選挙に臨んだため、また特殊な 選挙法のためもあって、獲得投票数 はほぼ同じだったにも関わらず左翼 の勢力が勝利し、反カトリックの政 府(人民戦線政府と言います)が誕 生しました。この選挙結果を見て教 会を憎む人々は大胆になり、大都市 では教会や修道や聖職者に対する暴 力行為が頻繁に起こるようになりま した。3月には聖ホセマリアが世話 をしていた聖イサベル修道院も暴徒

に襲われました。幸いに警察が来て、またガソリンが切れたため、教会の外側の扉が少し焼けただけで終わったのですが。5月には修道院は政府に没収されるという法律ができました。

7月、夏休みが始まりました。一年 ほど前にメンバーになった建築学部 の学牛ペドロ・カッシアロとフラン シスコ(パコ)・ボテーリャは、夏 休みのため故郷のバレンシアに帰省 しましたが、オプス・デイのセン ターのために家を探すよう頼まれて いました。マドリードには神父と数 人のメンバーだけが残りました。寮 が手狭になったので、また新しい家 を手に入れていました。その数人で 引っ越しをし15日から新居に住み始 めました。16日にペドロたちから適 当な家が見つかったという電報が 入ったので、17日に寮長のリカル ド・バリェスピンがバレンシアに行 きます。18日の朝、家主の弁護士と

契約の条項を確かめていたとき、けたたましく電話がなりました。アフリカの駐屯軍が武装蜂起した、バルセローナでは道路に大砲がでている、と。3年続く悲惨なスペイン内戦が始まったのです。聖ホセマリアの計画は頓挫したのでした。

尾崎明夫

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/sei-josemaria-25/ (2025/10/22)